



佐野日本大学短期大学学報

かたくり



ACCREDITED
2019

発行/佐野日本大学短期大学 栃木県佐野市高萩町1297 電話(0283)21-1200

本学は令和元年度(一財)短期大学基準協会による認証評価の結果、適格と認定されました。



佐野日本大学短期大学 創立30周年記念

SANOTAN FESTIVAL

希望の灯りをともそう

SANOTAN FESTIVAL 11月4日(水)

年 頭 の ご 挨拶



未来への希望に向け 新時代の教育を

理事長 長谷川 弘

新年あけましておめでとうございます。旧年中は本学園に対し格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。本年も昨年同様、ご指導ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。

昨年、新型コロナウイルスの感染拡大は、記念すべき「オリンピックイヤー」となるはずだった2020年を一変させました。特に2月28日、文科省からの臨時休校要請は、全国の教育機関に大きな混乱を引き起こすものとなりました。各学校において教育活動が制限され、学生・生徒だけでなく保護者の皆様も大きな不安を感じられたことと推察いたします。

しかしコロナ禍の中、諸外国より遅れていると指摘されていた日本の教育現場がオンライン対応を余儀なくされ、半ば強制的にデジタル化されたことは、別の側面における進化をもたらしました。人間万事塞翁が馬、このことは、従来「対面型」に偏っていた教育活動のあり方を根本から問い直す機会となりました。本学園でもオンライン授業への対応がすぐに始められ、「学びを止めない」を共通認識に、迅速かつ積極的な対応ができたものと、いささか自負しております。

そして、このICT化への流れは不可逆的なものであり、今後さらに加速するはずで、昨年春からサービスが開始された第5世代移動通信システム「5G」はIoTとの連動により、教育現場も含め革新的な活用が期待されます。たとえばすでに国内でも、新型コロナウイルス感染予防としてロボットを遠隔操作したり、自宅にいながら登校時と同等の教育を受ける手段としてのアバターロボットの開発が進んでいます。

今、社会はコロナ禍と急激なICT化により、「変化へ適応する力」が厳しく問われています。しかし本学園は常に時代の変化を先取りした教育を行ってきました。逆境に立ち向かい、変化を恐れない果敢な姿勢は、むしろチャンスを引き寄せます。これからも私たちは、激変する未来に大きく飛躍する学生と生徒を育てる教育活動に、全力で取り組む所存です。

昨秋、短期大学では学園祭の代替として「SANOTAN FESTIVAL～希望の灯りをともそう～」を開催いたしました。コロナ禍により創立30周年に向けた計画の見直しを余儀なくされる中、学生の皆さんを中心に企画立案され成功を収めました。キャンパスを彩るイルミネーションは神々しく輝き、困難に負けない勇気と感動、そして未来への希望を与えてくれます。

最後になりましたが、新しい年が皆様にとってすばらしい一年となることをお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



困難を乗り越え 新しい未来へ

学園長 浦田 奨

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのことと存じます。また今年も本学園に対し、格段のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

昨年の新型コロナウイルス感染拡大は、世界中の人々の生活を根本から変えるものでした。日本でも多くの店舗や施設が営業自粛を余儀なくされ、経済に大きな打撃を与えました。そして一方で、学校の休校に伴うオンライン授業や、多くの職場で普及したテレワークなどデジタルツールの活用が急速に進み、それまで常識であったことの多くが覆されました。今後、感染が完全に終息したとしても、社会が元に戻ることはないと言われます。

振り返れば、過去に幾度となく繰り返された自然災害による甚大な被害から人々を救ったのは、自分のことはまず自分で守るという「自助」の意識に、人々が主体的に助け合うという「共助」の心が重なり合った力でした。なんの前触れもなく、社会構造そのものが一瞬で変わってしまうこの不透明な時代だからこそ、自己の利益だけにとられることなく、すべての人が新しい生活のあり方を積極的に構築していく姿勢が求められます。

日本大学の教育理念「自主創造」には、「自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく」という、この困難な時代を生きるための指針があらわれています。そして私たち佐野日本大学学園はこの精神に基づき、「時代を先取りする教育」を常に実践してきました。新型コロナ感染拡大による休校要請を受けた時、すぐにオンラインによる授業配信を開始し、「教育の危機」を乗り越えることができたこと、また対面授業と大きく変わらない指導体制に、多くの保護者の皆様から喜びの声をいただいたのも、未来を見据えた教育を展開する本学園の成果だと考えています。

「艱難汝を玉にす」という言葉があります。西洋のことわざの意識ですが、「人間は困難を乗り越えてこそ、立派になる」という意味をあらわしています。先が見えない変化の激しい時代だからこそ、そこで経験する困難に大きな意義があるのです。これからも私たちは、学園で学ぶすべての若者が逆境をたくましく乗り越える力強さを身につけ、この佐野の地より世界に向けて羽ばたいていける人材に成長できるよう全力で取り組んでまいります。

最後になりましたが、皆様の一年が希望に満ちたすばらしいものとなることを祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

年頭のご挨拶



夢と挑戦

学長 佐藤 三武朗

眼にまばゆい新春の訪れです。木々は初々しく、小鳥はのどかにさえずり、岡の辺には花々が咲いています。

新春を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

皆さんはご家庭において、健やかな新年をお迎えになったと推察します。私もまた家族と一緒に、海原に昇る日の出に向かい、手を合わせました。皆さんの健闘を心から願い、無病息災で学園生活を送って欲しいと祈りました。

昨年はコロナ禍のために、本学の創立30周年記念の祝賀会をはじめ、予定していたほとんどの行事を中止せざるを得ませんでした。

今年もまた、コロナ禍の影響を免れないでしょう。しかし、私たちは過去に学び、先人たちが困難を克服したように、英知を結集し、情報を共有して、未来に羽ばたく挑戦を怠ってはなりません。オンライン授業、三密を回避した対面授業を導入し、その甲斐があって、幸い、学内からコロナ感染者が出ることはありませんでした。逆に、学外実習を行い、その成果として、高い就職率を得ることができました。

とりわけ、記憶に残るのは「サノタン・フェスティバル」の実施です。コロナ禍と闘っている国内、さらに全世界の医療従事者や関係者を励まそうと、「希望の灯りをともそう」のスローガンの下に、学生が主体的に行動し、教職員と連携して、11月4日、イルミネーションの点灯と花火の打ち上げを行いました。忘れ得ぬ感動の瞬間でした。本学創設以来、初めての試みであり、今でも夕方にはイルミネーションが点灯し、近隣の人々の目を楽しませています。学生の発想と力は、未来を照らしてくれる感じがします。「想う人 考える人行う人」という本学の教育と指導の理念が見事に開花したと、私は思います。

歴史を辿ると、ペストやコレラやスペイン風邪など、感染症が起こる度に人類は一致結束して挑戦し、その克服に務めてきました。こうした闘いは、今後も続くでしょう。

感染症との闘いもそうですが、私たちは降りかかる困難や災難に負けるわけには行きません。

花香新春の佳き日、皆さんには、どうぞ、高い志を抱いて、それぞれの夢の実現に向けて挑戦して欲しいと願っています。

芋掘り&ハロウィンスイーツ

栄養士フィールドでは、食育の一環として、学内農園でキュウリやトマト、枝豆、さつまいもを育てています。例年、保育園児やご高齢者をお招きしてさつまいも掘りを行っていましたが、今年度はコロナ禍で学生のみでの参加となりました。大きく育ったさつまいもを使ってハロウィンスイーツを作成し、芋のツルを利用したクリスマス&お正月リースも製作しました。余すところなく使い切ることで収穫のありがたさを感じる体験になりました。



訪問入浴デモンストレーション

10月22日(木)、ピジョン真中株式会社 訪問入浴スタッフの皆様にご協力いただき、訪問入浴サービスのデモンストレーションを行いました。見学した社会福祉士・介護福祉士フィールドの学生は、ケアのスペシャリスト達の丁寧な技術に、驚きと感動の連続でした。利用者役となり、入浴や洗髪を体験した学生は「気持ちイイ！」と満面の笑顔でした。笑顔を引き出すことも介護には大切であると実感できた時間になりました。

ピジョン真中株式会社様、ありがとうございました。



SANOTAN FESTIVAL ～希望の灯りをともそう～

11月4日（水）本学創立30周年を記念し「SANOTAN FESTIVAL」を開催しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、残念ながら「みかも祭」を中止せざるを得ませんでした。しかし、学友会を中心に実行委員会を立ち上げ、このコロナ禍の中、日々頑張っているすべての人へ少しでも希望を持っていただけるよう、そして未来への光を届けられるよう「希望の灯りをともそう」をテーマに開催しました。

一般公開はなしでの開催となりましたが、イルミネーションの点灯式、モニュメントとボードメッセージのお披露目、ピアノ演奏、打ち上げ花火など、会場は大いに盛り上がりました。イエローゴールドのイルミネーションが点灯したときは、その美しさに感動し、夜空に打ち上げられた75発の花火に涙を流す学生も多く見られました。また、鮮やかなピンクに彩られた「SANOTAN」のモニュメント周辺では、さまざまなポーズで記念撮影をする学生もあり、今後本学を象徴するシンボルとして人気スポットになることと思います。

今回のSANOTAN FESTIVALを開催するにあたっては、昨年度学友会会長であった倉林優実さんが就職したイベント会社に関わっていただきました。先輩と後輩が一緒になって創り上げた創立30周年の節目にふさわしい素敵なイベントとなりました。



学報編集委員

久保 由佳

穂積 元

戸井田 陸美

栗原 多恵

高塚 雄基